家庭読書（）のすすめ

２０１２・１０・２　　　　学校司書　　河野　真由美

読書の秋がやってきました。秋の夜長に読書を・・・というキャッチフレーズは昔も今も変わりません。そんな中で、子どもたちを取り巻く生活環境は日々多様化されています。本の種類も増え、パソコンや携帯電話なども普及し、お楽しみの選択肢がどんどん増えています。全国的にも子どもたちの活字ばなれが問題視されてから、かなりたちます。

図書館でも本を読む子どもが少しでも増えるよう工夫をしているところです。かつて多読賞でたくさん本を読んだ子を表彰していた時がありますが、多読賞目当ての借り方の善し悪し・読んだ冊数はほかの子との比較ではないなどの思いからこれをなくし、今は学年別目標冊数に切り替えています。高学年で年間４０冊・中学年６０冊・低学年８０冊という冊数は、無理なく読める数字と思っていますが、よく読む子とそうでない子の差は年々広がっているように感じます。

「できれば全員に目標を達成してほしい。」・・・今年度は貸し出しカードの裏にちょっと工夫をしました。山登りコースのイラストを貼り、１０冊毎のポイントにシールをあげプラス１券として使えるようにしました。

図書館クイズの正解者にあげるシールと併用できるようにし、たくさん本を借りていく子どももいます。パソコンで自分で貸し出し冊数を調べられるものはげみになっているようです。

　家でのお子さんの様子はどうでしょうか？少なくても一週間に一回は本を借りて帰っていますか？家で本を読んでいますか？実際、読書のことまで気を配るのは大変ですよね。でも「後悔さきにたたず」です。私も我が子の小さい頃を振り返り、もっと本を読んでやればよかったなどと今更ながら反省しています。

図書館でもひとりでも多くの子どもに本好きになってもらえるよう努めますが、ご家庭でも本にふれる場所・時間の確保を工夫してみてください。りっぱな本棚でなくても手を伸ばせば本がある環境はとても大事です。わからない言葉をそのままにしないために辞書をおくこともおすすめします。

図書館から『**毎月２３日は家庭読書（家読）』**を提案しています。家読とは家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的にした読書運動で、全国的な広がりをみせています。川崎小学校では４月２３日が「子ども読書の日」であることから、「子どもたちが本に親しむきっかけを家庭でも作り、毎月２３日は家族みんなで本を読みましょう」という取り組みを進めています。ほんのちょっとの時間からでも始めると、本が苦手な子でも読書のよさに気づくかもしれません。おうちの方からの声掛けで**家読（うちどく）**を習慣づけ、家族いっしょに本を読む楽しさをぜひ味わっていただけたらと思います。

毎月２３日は

()の